

図書館だより no.251



2025（令和7）年1月21日発行 編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Tel 024-535-3218 Fax 024-536-4787 <https://www.library.fcs.ed.jp/>



展示のご案内

◆企画展示 物語が「しかけ」と出会うとき しかけ絵本の世界

当館が所蔵するしかけ絵本の中から、ポップアップ絵本を中心に展示・紹介します。

場所：企画展示コーナー（正面入口脇）

期間：1月7日（火曜日）から4月2日（水曜日）

◆ミニ展示① 出版文化をたどる

世界の出版、出版の歴史など、出版に関する本を展示します。

場所：時事展示コーナー（蔵書検索コーナー横）

期間：1月7日（火曜日）から2月11日（火曜日）

◆ミニ展示② どう生きる？ AI時代

AI技術の活用法や向き合い方について、参考となる雑誌を紹介します。

場所：館内中央 雑誌展示コーナー（調査相談カウンター横）

期間：1月7日（火曜日）から3月5日（水曜日）

イベントのご案内

●かがくいひろしの世界展 ちいさなおはなしかい

1月25日（土曜日）から県立美術館で開催される「かがくいひろしの世界展」にて、当館職員が絵本の読み聞かせをします。

日時：1月29日（水曜日）、2月5日（水曜日） 10時30分から（30分程度）

対象：0才～3才ごろの子どもと、その保護者

会場：県立美術館企画展示室

※保護者は企画展チケットが必要です。おはなしかい参加の事前の申し込みは不要です。

福島県立図書館では福島県教育委員会公式note「福島県学びの情報プラットフォーム」にて、イベントのご案内や資料の調べ方案内など随時お知らせを更新しています。ぜひご覧ください。

福島県教育委員会 公式note

検索

【休館のお知らせ】

令和7年2月12日（水曜日）から
令和7年2月21日（金曜日）まで

上記の期間、図書特別整理期間のため休館いたします。

休館中の図書の返却は、玄関入口壁の返却ポストをご利用下さい。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・社会・自然

『世界のパッチワーク 文化と伝統をつなぐ技法と作品コレクション』カトリーヌ・ルグラン／著, 石上 美紀／監修
グラフィック社 2024.8 753/牒 248

本書は世界 5 つの地域から、33 の国々のパッチワーク作品を紹介しています。たくさんの美しい写真と共に、各国のパッチワークについて、歴史や文化的背景がまとめられています。色とりどりのパッチワーク作品は眺めるだけでも楽しめて、パッチワーク文化を知ることができる、読みものとしても面白い一冊になっています。

『特殊詐欺の心理学』越智 啓太／編集代表
誠信書房 2024.9 326.34/竹 249

オレオレ詐欺、還付金詐欺、架空料金請求詐欺など、手口が多様化している特殊詐欺ですが、昨年度には過去最大の認知件数となったそうです。「自分だけは詐欺の被害に遭わないという楽観的認知は特殊詐欺に対して脆弱」と著者。なぜ特殊詐欺の手口を知っていても引っかかるのか、特殊詐欺被害を防ぐためにどうすればよいかを、心理学的観点から分かりやすく解説しています。

『透明マントのつくり方 究極の“不可視”の物理学』
グレゴリー・J.グバー／著, 水谷淳／訳 文藝春秋
2024.8 425/竹 248

姿や形を見えなくする透明マントはSF・ファンタジーでおなじみです。現実では光線や音波、電波など不可視のものが多く存在することを物理学が発見しています。科学技術の進歩と空想世界の距離が近づいて、いつか透明人間が現れる日が来るのでしょうか。付録のSF小説リストも読者を近未来へといざないます。

児童・児童図書研究

『「若草物語」のルイザのヨーロッパ旅物語』
ルイザ・メイ・オルコット／著, 谷口 由美子／構成・訳
悠書館 2024.7 J933.6/オ

児童文学の名作『若草物語』の著者による、19 世紀のヨーロッパ旅行をモチーフにした旅物語です。

最初の旅からは、『若草物語』ローリーのモデルといわれる青年との出会いの話です(短編集『わが少年たち』より)。2 度目の旅の物語『ショール・ストラップス』には、妹メイとその友人との女性だけの一年に及ぶ旅の様子が描かれています。三人は、洪水など予期せぬ出来事に遭遇しながらも、各地の名所旧跡を辿り、人々と交流しながら自由気ままな旅を楽しみます。

実際にメイの描いた大聖堂などのスケッチが挿入されており、当時のヨーロッパ各地の芸術文化や生活を描写した紀行文としても興味深い作品です。

雑誌・新聞

新しい年を迎えました。2025 年の経済予測について特集された雑誌をご紹介します。ぜひご活用ください。

『経済界』経済界 Z330.5/K14 2025.2
(第 60 巻第 2 号, 通巻 1185 号, 2025.2 月号)
特集「2025 年を読み解くカギ」

『週刊東洋経済』東洋経済新報社 Z330.5/T4
2025.1(第 7212 号, 2024.12.28-2025.1.4 号)
特集「2025 年大予測」

『エコノミスト』毎日新聞社 Z330.5/E1
2025.1(第 103 巻第 1 号, 通巻 4855 号,
2024.12.31-2025.1.7 号)
特集「世界経済総予測 2025」

『週刊ダイヤモンド』ダイヤモンド社 Z330.5/S7
2025.1(第 113 巻第 1 号, 通巻 5035 号,
2024.12.28-2025.1.4 号)
特集「総予測 2025」

地域

『南湖公園ものがたり 白河にうけつがれた共楽の園地
国史跡名勝指定 100 周年記念特別企画展』
白河市歴史民俗資料館／編 白河市歴史民俗資料館
2024.9 L629.3/S2/1

福島県の南端・白河市には「南湖」という名勝があります。南湖は白河藩主・松平定信により築造された庭園で、身分を問わず誰でも訪れることができました。湖畔には桜や楓などの木々が植えられており、那須連山を背景に美しい景観を楽しむことができます。2024 年は南湖公園が国の史跡名勝に指定されてから 100 年目。白河市歴史民俗資料館では記念の企画展が開催され、図録が刊行されました。節目のこの機会に、図録を片手に南湖公園の魅力に触れてみてはいかがでしょうか。

『会津人が書いた只見線各駅物語 36+2 駅に息づく歴史秘話と現在』
鈴木 信幸／著 言視舎 2024.10 L686.2/S8/1

2022 年 10 月に全線運転再開した JR 只見線。近年は外国人観光客も多く訪れる観光名所ですが、その各駅で下車したことのある人は少ないのではないのでしょうか。

この本では、会津若松から新潟県の小出まで、2 つの廃駅を含む只見線 36 全駅を取りあげています。そのほとんどは無人駅ですが、ひとつひとつに歴史や名所があり、会津生まれの筆者によって丹念に掘り起こされ記録されています。読めば気になる穴場が見つかるかもしれません。只見線沿線を訪れる際にも必読の一冊です。